

教科等研究会（小学校国語部会）

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり
～付けたい力と手立てを明らかにして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
6/6	41名	矢部小	10/18	15名	広安西小	11/4	10名	広安小	1/26	41名	嘉島東小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマ設定

本年度の郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、小学校国語部会では、研究テーマを「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくりとして研究を進めていくことにした。また、本テーマの研究を進める上で、身に付けるべき具体的な国語の能力と手立てについて授業研究会で検証していくために、「付けたい力と手立てを明らかにして」をサブテーマとして設定した。国語科の学習において、付けたい力と手立てを明らかにして「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことがねらいである。

本テーマの授業づくりには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠であり、そのためには言語活動の創意工夫が必要である。つまり、本テーマは、これまでの言語活動を中心とした研究をもとに、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付け、さらに「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」という国語科の目標の実現に直結しているテーマであると考えられる。

② 基本方針

ア 講話・研究授業・授業研究会を中心に研究を進める。

イ 低・中・高学年部の3つの部会に分け、各学年部理事は3名ずつとする。事前研・授業研の運営等は、各学年部の理事が中心となって実施する。

ウ 研究授業では、授業者は「熊本の学び学習構想案」の型で指導案を作成し、「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にして授業研究に臨む。

エ 授業研究会では、討議の柱を設け、柱を中心に、各会員の実践を踏まえ意見交換をする。

③ テーマに迫る研究のあり方

ア 講師の先生のご講話による授業づくりのポイント

福田美佐子先生（不知火小指導教諭）によるご講話から「話すこと・聞くこと」領域における授業づくりについて、具体的な教材を基にそのポイントとその手立てを学んだ。

イ 研究授業の主張点

研究授業の主張点として、「熊本の学び」でポイントとなる3項目「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にし、児童が見通しをもち、主体的に授業に臨めるようにした。

ウ 討議の柱を中心にした意見交換

研究授業の参観及び研究会の視点の中心となるものとして、討議の柱を設定した。限られた時間の中で研究を進めるためには、様々な研究の視点の中から本時の授業で明らかにされる部分に焦点を当てて討議を行う必要がある。事前研究会での協議をもとに討議の柱を決定し、授業研究会を行った。さらに、授業研究会では、全体での質疑応答の後、討議の柱を中心に少人数での班別協議を行った。その際、付箋紙を活用し、討議の柱に沿った意見交換がしやすいように工夫した。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・第1回研究会では、福田美佐子先生（不知火小指導教諭）をお招きし、「話すこと・聞くこと」の授業づくりについて、ご講話いただいた。国語科で求められている授業づくりについて、具体的な教材を基にそのポイントを分かりやすくご講話いただき、参加者にとって大変有益な情報が多く得られた研究会となった。
- ・第2回研究会では、1年生の説明的文章教材「じどう車くらべ」において、「表を用いて事柄の内容や順序に着目させる本時の授業展開が単元の目標（共通点や相違点、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることができる）達成に向けて効果的であったか」を協議の柱として意見交換を行った。学習指導要領でも情報の扱い方として情報と情報の関係が明記されている。福田美佐子先生（不知火小指導教諭）をお招きし、国語科における近頃の流れや本時の授業について助言していただいた。「1年生は学ぶ視点をより焦点化することが必要」「タブレットの活用法やワークシートの工夫など参考になった」といった感想が聞かれ、1年生の説明的文章教材において、表を用いてまとめていく学習の効果について議論が深まった。また、「つくり」と「しごと」の順と、「そのために」というつなぐ言葉にこだわらせることが大切だという意見が多く出された。
- ・第3回研究会では、3年生の文学的文章教材「ちいちゃんのかげおくり」において、「単元のゴールの姿を実現するための学習過程であったか」「全体で意見を深める際の方法や手立ては有効であったか」を協議の柱として意見交換が行われた。国語科の授業では、児童から出た意見（考え）をどう集約してまとめていくかが難しいという声をよく耳にする。本授業では、2つのかげおくりを比較しながらちいちゃんのとった行動に迫る学習過程において、児童から出た意見（考え）を、短冊を用いて分類し、整理し、まとめていくという手立てがとられていた。研究会では、思考を深めるためのツールに関する話題も出て、大変参考になったという感想が多く聞かれた。

② 課題

例年は、地区ごとに部会を設け、部会ごとに事前研や当日の運営を行う。しかし、コロナ禍においては、会員数の多い国語部会の全員参加での研究会は難しい。そのため、今年度も低・中・高の3部会に分けて、分散型の研究会という形で運営を行った。この運営方法は、感染防止と負担軽減というメリットもある。今後の運営の在り方については更なる検討が必要である。また、事前研に関して、参加対象者が連絡なく欠席してしまうことがあった。今後は、参加対象者への細かな連絡が必要であると感じた。第4回目は、県のリスクレベル3の中で行ったため、提案授業をZOOMによるリモート形式で参観したが、児童の書きぶりや発言が分かりにくかったという意見が参加者から出された。提案授業の参観形態についても検討が必要である。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元名：相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう「この本、おすすめします」

授業者：嘉島東小学校 三原 美佳 教諭

書くことへの抵抗があったり、何を書けばよいか分からなかったりする児童が多い実態を踏まえ、児童が「やってみたい」「できそう」と思える学習課題の設定により児童の意欲を喚起した上で、作例をモデルにしながら推薦文の構成の要素を確認していた。そして、それら一つ一つについて書く内容を短冊にまとめさせたり、要素ごとにまとめたものを無理なく文章につなげられるようなワークシートの工夫を行ったりするなど、随所にきめ細かな手立てがとられていた。授業研究会では、「子どもたちが見通しを持ち、「できそうだ」と感じられる学習課題や学習過程になっていたか」「苦手な児童が、学習したことをもとに自分の下書きをまとめ直す手立ては有効であったか」という討議の柱を設定し、班別協議や全体討議を行った。「児童のやる気を引き出し、継続させる手立てがなされていた」「“書くことができる”ではなく、書くことができるようになる資質・能力の育成のために相手に合わせて書く目的の大切さを感じた」「作例が手作りで、レベルアップポイントも丁寧に示されており、スモールステップで学習活動を設定していたのが良かった」「推敲・書く・交流・推敲・書く・交流と、書く時間をたっぷり確保すると、さらに推薦文がレベルアップしていくのではないか」「タブレット、書画カメラなどのICT機器を効果的に活用していた」「児童の実態に応じた単元計画、授業づくりがなされていた」など、学びが深まる提案だったという意見が多く出された。また、日頃の日記指導や短文作成、読書、スピーチなどを組み合わせ、継続していくことの大切さを確認したり、語彙量を増やす取組を共有したりすることができた。

(2) 学習構想案

1 単元構想

単元名	相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう「この本、おすすめします」		
単元の目標	(1) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)ウ) (2) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知(1)ア) (3) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思B(1)ア)		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。(1)ア)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ③「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	①粘り強く、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、推薦する文章を書こうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
自分が薦めたいものや事柄について、相手や目的を明確にして推薦する文章を書き、考えを伝えようとする児童			
単元を通じた学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
下級生におすすめの本を「この本おすすめカード」にまとめ、伝えよう。		相手や目的に合わせて文章の構成や展開、書き表し方を工夫することを通して、言葉への自覚を高めること	
指導計画と評価計画(7時間取扱い 本時5/7)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	○新6年生へのミッションが来ていることを知り、学習課題を設定する。 ○学習計画を立て、自分が好きな本や下級生に薦めたい本を出し合い、決定する。	【態①】(ノート・観察)
二	4	○推薦文の構成の要素を捉え、それら一つ一つについて、自分が書く内容をまとめる。 <u>○「下書き」と「清書」の作例を比べて改善された点を考え、見つけた工夫をもとに助言し合いながら、下書きをまとめ直す。(本時)</u> ○下書きを見直し、相手が読みやすいように工夫して清書する。	★【知①】(ワークシート・観察) 相手を意識して表現することを通して、言葉が相手とのつながりをつくることに気づいている。 ★【思①】(ワークシート) 相手や目的に応じて、材料を関連づけ、推薦理由等を考えている。 ★【思②】(ワークシート・カード) 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ★【態①】(ワークシート・観察) 粘り強く、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、推薦する文章を書こうとしている。
三	1	○文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	★【思③】(ノート・観察) 相手を意識した読みやすさの観点から、感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。 【態①】(学びシート・観察)

2 単元における系統及び児童の実態(略)

3 指導に当たっての留意点

- ・導入において、紹介文と推薦文の両方を提示し、児童が二つの違いを理解した上で学習に臨むことができるようにする。
- ・図書担当の先生から届いた「東小のみんなが、もっと本を読みたくなるようなアイデアを考えてほしい」というミッションから学習課題を設定し、児童が必要と考えた学習内容を学習計画に反映させ

たり、児童一人一人の読書経験の違いを考慮して推薦する本を選ばせたりすることで、全員が主体的に学習に取り組むことができるようにする。

- ・互いに読み合って助言し合う時間を十分に確保したり、構成や展開、書き表し方を工夫する際に手立てを用意したりすることで、児童が、作品がよりよくなっていくことを実感できるようにする。
- ・毎時間の振り返りを「学びシート」に記録することで、単元の学習課題の達成に向けて児童の意欲を高めるとともに、学びの蓄積を視覚的に捉えることができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

「清書」の作例の改善された点を出し合い、助言し合いながら下書きをまとめ直すことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
か だ い を つ か む	5分	<p>1 学習の見通しをもち、めあてを設定する。</p> <p>(1) 単元の学習課題を確認する。</p> <p>(2) 前時の学習を振り返る。</p> <p>◇「清書」の例のレベルアップポイントを考えた。</p> <p>◇見出し、本の情報、本の紹介の部分の下書きをまとめ直しました。</p> <p>(3) 「清書」の前にまとめた「下書き」を見て、本時の学習への課題意識をもつ。</p> <p>◇おすすめの理由の書き方は、どこが変わったのだろう。</p>	<p>○これまでの学習を振り返りやすいように構成の要素を提示する。</p> <p>○「清書」の作例を「下書き」の作例と並べて提示し、前時に出し合った気づきを書き入れておくことで、児童が、本時に学習することを視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>○前時と同じ流れで学習することで、児童が見通しをもって安心して学習できるようにする。</p>
		<p>【学習課題】「清書」の例のレベルアップポイントは何だろうか。</p>	
		<p>【めあて】「清書」の例のレベルアップポイントをもとに、助言し合いながら自分の下書きをまとめ直そう。〈パート2〉</p>	
し つ か り 考 え る	30分	<p>2 「下書き」と「清書」の作例の「おすすめの理由」, 「よびかけ」の箇所を比べ、改善された点を出し合う。</p> <p>◇「清書」の方は文章を短いまとまりに分けてあります。</p> <p>◇相手が下級生なので、「清書」の方は難しい言葉や漢字を避け、よりわかりやすく書き換えられています。</p> <p>◇「清書」の方は伝えたい相手に合わせてよびかけてあります。</p> <p>3 まとめた下書きの「おすすめの理由」, 「よびかけ」の箇所をどのように改善するとよいか助言し合い、まとめ直す。</p>	<p>○前もって、児童が前時に記入した気づきを把握し、交流するポイントを明確にしておく。</p> <p>○学習活動2で共有したレベルアップポイントに加え、誤字・脱字、段落等、文章を書く際の基本事項についても意識させる。</p>
		<p>【期待される学びの姿】</p> <p>まとめた下書きの「おすすめの理由」, 「よびかけ」の箇所をどのように改善するとよいか、レベルアップポイントに基づいて主体的に助言し合い、まとめ直している。</p>	<p>【具体的評価規準】思②</p> <p>○目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">(方法：ワークシート・観察)</p>
		<p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○レベルアップポイントを一つずつ確認しながらペアごとに支援する。</p>	
ま と め る ・ 振 り 返 る	10分	<p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>○学習課題に対する答えを児童の言葉をもとにまとめるようにする。</p>
		<p>【まとめ】「清書」の例のレベルアップポイントは、(文章を短いまとまりに分ける、相手にわかりやすい言葉を選んで使う、相手に合わせてよびかける)である。</p> <p style="text-align: center;">→相手や目的に合わせて合わせることが大切。</p>	
		<p>5 学習を振り返る。</p>	<p>○学びシートに「わなしい」の視点のいずれかで振り返らせる。</p>